

# 東京スカイツリー®を借りてみませんか？

## 電波塔 賃貸

東京スカイツリーは

放送・通信事業

インフラ事業

気象観測の研究

など

幅広い分野で活用いただける電波塔賃貸業を展開しています！



### ① 賃貸区画例 (約100㎡)

区画された一室を使用できます



### ② 賃貸区画例 (約6㎡~)

必要な方を区画して使用できます



### ③ 賃貸箇所例 (屋外)

機器を設置することができます

### 賃貸先一例

■各放送事業者 送信機・アンテナ  
■インフラ事業者 無線設備

■防災関連事業者 カメラ設備  
■電力中央研究所様 雷観測装置

物件名 東京スカイツリー

所在地 東京都墨田区押上1-1-2

アクセス 東武スカイツリーライン  
とうきょうスカイツリー駅から徒歩3分  
東京メトロ半蔵門線・都営浅草線  
押上駅から徒歩5分

利用場所 (屋外) 塔体鉄骨 ※アンテナ等設置  
(屋内) 機器室 数㎡~百㎡/1区画あたり

賃料 応相談 ※高さ・面積により変動

諸費用 共益費・水光熱費  
※区画内工事はお客様負担となります

期間 複数年~1週間や1か月など短期間も可

設備 必要設備は別途相談  
駐車場は優先使用可能 (事前申請)

備考 ・防災センターによる24時間365日監視  
・二回線受電方式や非常用発電機による停電対策  
※高い防災性とセキュリティ性を確保しています

©TOKYO-SKYTREE

## お問合せ

利用条件や現地視察など お気軽にご相談ください！

東武タワースカイツリー株式会社

電波塔事業本部 賃貸担当

E-mail: tower-leasing@tokyo-skytree.jp

東京スカイツリー公式HP  
塔体への機器等の設置を  
お考えの方へ



TOKYO  
SKY TREE

# 東京スカイツリー®の高さを活用した研究について

## 【高さ497m地点】

### ■雷観測(電力中央研究所)

2012年3月の東京スカイツリー竣工時点より高さ497m地点に塔体への落雷の電流を計測するログスキーコイルを設置し、雷の観測を行っており、平野部で発生する雷の特性解明に取り組んでいます。

## 【高さ480m地点】

### ■住宅地の熱環境観測(日本気象協会)

2016年8月と2017年8月に高さ480m地点から熱赤外カメラによるモニタリングを行い、ヒートアイランド対策検証と熱中症予防情報提供に有用な情報が得られるかどうかの観測が行われました。

## 【高さ458m地点】

### ■雲粒観測(防災科学技術研究所)

高さ458m地点で雲を構成する雲粒の大きさや個数の観測を行いました。通常、飛行機などでしか観測が難しい雲内の状況を東京スカイツリーの高さを活かして観測することによって、得られたデータをゲリラ豪雨の早期検出のための雲レーダー開発に活用しています。

### ■エアロゾル観測(国立極地研究所・広島大学ほか)

高さ458m地点で捕集した大気中の微粒子(エアロゾル)から、主に雲粒を凍結させる性質をもつ粒子(氷晶核)を分析しています。

## 【高さ458m地点および250m付近】

### ■気象観測(産業技術総合研究所)

関東の大雪や雨雪判定を予測精度向上のため、実態把握や予測に必須な実測値を得るため、高さ458m地点および250m付近での気象観測を行っています。東京スカイツリーで高頻度・複数高度にて気象観測を行うことで高度別の気温・湿度・降水の種類の実現することを目的としています。

## 【高さ445m地点および345m地点】

### ■雷観測(理化学研究所)

2018, 2019, 2021, 2022年の夏季期間にて、高さ445m地点に、雷現象によって発生するガンマ線を測定するガンマ線検出器を設置し、雷現象の秘密を解き明かす研究を行いました。ガンマ線の検出器については、天望デッキフロア345の「SKYTREE® MINILABO」に展示しており、観測の様子や映像による研究紹介をしております。

## 【高さ375m地点および5階】

### ■風観測(東京工業大学)

2018年3月~4月にかけてスーパーコンピュータ京により解析したデータから、東京地区での極端気象に対する安全性確保を目的とする研究プロジェクトについて、予備調査が行われました。

## 【高さ300m付近】

### ■雷観測(電力中央研究所)

東京スカイツリーへの落雷の電流の計測データを蓄積する場所になります。

### ■大気質観測(電力中央研究所)

高さ300m付近の地上の環境に左右されない高所で、窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SOx)、オゾン、PM2.5などの観測を2013年8月から2020年12月まで行い、大気汚染対策検討のための大気質モデルの構築に活用しました。

## 【高さ250m付近】

### ■大気中二酸化炭素(CO2)などの温室効果ガス観測(国立環境研究所)

2016年3月より高さ250m付近で大気中の温室効果ガス(CO2、メタン等)と関連物質(炭素同位体、酸素、一酸化炭素、等)の観測を行っています。  
世界最大の都市である東京からのCO2排出量を排出源別(植物の呼吸から出たものか、化石燃料を燃焼して出たものか)および燃料別(天然ガスか、石油か)に推定することが可能になると期待できます。

## 【高さ450m地点および地上付近】

### ■重力差による時刻の歪み観測(東京大学)

アインシュタインの一般相対性理論では、時間の進み方は重力の強さにより異なるため、高所ほど重力が弱まり、時間の進み方が速くなると言われています。  
2018年10月~2019年4月にかけて高さ450m地点および地上付近に時間を超高精度で計測できる光格子時計を設置し、時間の進み方の差による高低差を正確に測定する実験が行われました。

